主要科目の特長（商学部経営情報学科）

経営情報学科の教育課程（カリキュラム）を構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

（1）NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実は、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、全学生に配付したノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

・教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

≪専門科目≫は≪学部共通科目≫と≪学科専門科目≫という 2 つの科目区分によって構成されます。

① ≪学部共通科目≫は、≪学部必修科目≫≪商学・流通≫≪経営≫≪会計≫≪金融・財務≫≪情報≫≪実践的プログラム≫≪学部関連≫から構成されます。

a) ≪学部必修科目≫は、「商学総論 1・2」「経営学総論 1・2」「簿記入門」「会計学入門」および「経済学 1・2」を配置しています。いずれも必修科目であり、商学の基礎を学修します。

b) ≪商学・流通≫≪経営≫≪会計≫≪金融・財務≫≪情報≫は、商学・経営学における各分野の基盤となる科目を配置しています。

c) ≪実践的プログラム≫は、「専門演習」（ゼミ）と経営実践、ビジネス英語などを学修する諸科目から編成されています。「専門演習」（ゼミ）は、学生各自が関心を有する専門的な内容を学び取るために、2 年間にわたって少人数でテーマに関する調査、報告、議論、講読をおこないます。学修・研究の成果として卒業論文を作成・提出・発表します。

d) ≪学部関連≫は、資格取得を目指した科目、海外留学に関連した科目の他、「職業指導」「外書購読」「会社法」などの科目を配置しており、各自の進路、学修上の関心に応じて履修してください。

② ≪学科専門科目≫は、≪情報科目≫≪発展科目≫から構成されます。各自の学修上の関心に応じて体系的に履修してください。

a) ≪情報科目≫は、情報および情報システムによる経営管理・経営革新の理論と実践について学修する諸科目から編成されています。科目は、「プログラミング 1・2」「経営情報システム論」などを配置しています。

b) ≪発展科目≫は、企業経営について、地域および地球規模のソーシャルネットワークの視点から、ICT 活用による企業の持続的発展への貢献について学修するべく、3 つの科目群（地域ビジネス、国際ビジネス、ホスピタリティビジネスに関する諸科目）から構成されます。科目は、「地域ブランド論」「国際経営論 2」「ホスピタリティ論」などを配置しています。

(3) 演習科目

「基礎セミナー」

1 年次配当の必修科目です。授業は少人数でおこなわれ、導入・基礎教育を主要な目的にします。大学では、自分で調べ、考え、整理し、論理的に文章をまとめることが求められるようになります。「基礎セミナー」では、大学での学修方法、レポートの書き方、個人やグループでおこなう発表方法など（アカデミック・スキル）を身につけます。さらに、学生生活を送る上での基本的な心構え（ソーシャル・スチューデント・スキル）を養います。

「専門演習」

1) 専門演習とは

「専門演習（ゼミ、以下省略)」は、3・4 年次の 2 年間履修し、社会で活躍できる知識の獲得および人格形成に向けた「学び」を展開します。ゼミは少人数でおこない、専門的なテーマについて深く研究します。さらに、学生の研究発表を中心にし、教員とゼミ生との間、ゼミ生間のディスカッションを活発におこないます。ゼミは切磋琢磨の場であり、その結果、ゼミ生の間には強い仲間意識が醸成されます。研究活動の成果として、卒業研究論文の執筆が求められます。

専門演習には、多種多様なゼミナールを配置し、ほぼ全員がいずれかのゼミに加入しています。詳細は、秋学期におこなう専門演習に関するガイダンスなどで指示・連絡します。

2) 専門演習の履修にあたって

1. ゼミの選択：

「専門演習」（ゼミ）は学科専門教育の仕上げにあたる科目であり、主体的で積極的な研究態度が要請されます。自己の研究課題を考え、各ゼミのテーマを調べ、各自に有意義と思われる「専門演習」（ゼミ）に応募してください。

2. 定員：

担当する教員数によって変わりますが、通常 1 ゼミ 15 名程度を募集します。

3. 募集：

2 年次秋学期に CCS より募集がありますので、案内を見逃さないように注意しましょう。

(1) 選考

各「専門演習」（ゼミ）指導教員による書類選考、または面接による選考がおこなわれます。希望の「専門演習」（ゼミ）がいずれも定員超過の場合、他の「専門演習」（ゼミ）に所属が決定する場合があります。

(2) 発表

選考結果は、CCS「学修支援」の「3 年次演習加入申請」画面の「状態」欄に表示されます。

4. 資格：

2 年次終了時において総修得単位数が 40 単位に満たない時はゼミを履修できません。

選考において合格（内定）していても、内定は「取り消し」となります。

5. 卒業論文：

2 年間の指導を受けながら、4 年次にはゼミの研究を論文（通称卒論）にまとめます。この論文を担当教員に提出することで、2 年間の研究の評価を受け、単位が一括認定されます。

◎専門科目の一部をピックアップ

情報社会論

現代の情報社会が生み出した"光"と"影"を正しく認識していきます。そのうえで情報社会に生き、健全な発展に寄与できる"常識人としての知恵"の基盤を醸成しながら、その理論や実態に対する理解を深めていきます。

主な身につく力

経営データマイニング

企業では経営に関わる各種問題解決にデータマイニングを活用しています。本講義では、ビッグデータの解析などにも使われるデータサイエンスの技術や統計学のデータ分析手法の修得を目標としています。

主な身につく力

コンテンツビジネス論

従来型のコンテンツビジネス（出版市場、音楽市場、映画市場、放送市場）から、現在に至るコンテンツビジネス（デジタル配信モデル、SVOD企業のコンテンツ制作モデルなど）までを俯瞰的に学びます。

主な身につく力

地域ブランド論

地域ブランドの議論は、地理学や社会学、農学、政治学など様々な領域からの知見があります。本講義では主にマーケティング論やブランド論、流通論、商業論の視点から、地域ブランドの理論、手法、事例を学修します。

主な身につく力